

日の出だより

Vol.43

日の出山へ気軽なハイキングに行こう！

都内にありながら気軽にハイキングが楽しめる、日の出山ハイキングコースをご紹介します。

JR 青梅線御嶽駅までは、土・日曜ならJRのホリデー快速で新宿から1時間17分(立川から50分)、ケーブルカーの利用で御岳山までは楽に登れます。ハイキングコースは比較的軽装でも登山が楽しめる、1年を通して登ることができます。下山したら温泉でリフレッシュ。多摩の大自然に抱かれて、森林浴と天然温泉浴を堪能しませんか？



生涯青春の湯 ひのでミツ沢つるる温泉

天然掛流しの日帰り温泉。アルカリ泉質で「肌がツルツルになる」と評判。食堂・大広間・売店なども完備。

営業／10時～20時(受付は19時まで)
休／火曜(祝日の場合は翌日)
住所／日の出町大久野4718
電話／042-597-1126(イプロ)
ホームページ／http://www.gws.ne.jp/home/onsen/



【特典】2010年4月1日～4月30日まで

本紙ご持参で、入館料
お一人様100円引き！
(1グループ3名様まで)
大人800円⇒700円
小学生400円⇒300円
(3時間まで)

「桜まつり」開催

●期間：平成22年4月3日(土)10時～16時 ※天中止
●場所：日の出町民グランド(日の出町役場東側)

【問い合わせ先】日の出町役場 産業観光課 観光係 TEL.042-597-0511(内線：241)

循環組合の動き

平成21年 10月 2日(金)	平成21年第3回正副管理者会議
10月 9日(金)	二ツ塚処分場消防訓練
10月 20日(火)	平成21年第3回理事会
10月 28日(水)	平成21年第2回議会定例会
11月 17日(火)	エコセメント化施設自衛消防訓練
11月 24日(火)	第22回循環組合技術委員会
平成22年 1月 7日(木)	環境データ公表(上半期分)
1月 21日(木)	第26回環境保全調査委員会
	第3自治会谷戸沢処分場監視委員会
1月 25日(月)	第22自治会二ツ塚処分場対策委員会
1月 28日(木)	平成22年第1回正副管理者会議
2月 12日(金)	平成22年第1回理事会
2月 17日(水)	エコセメント化施設管理棟優良防火対象物認定
2月 22日(月)	平成22年第1回議会定例会

議会の報告

循環組合の議員は、多摩地域25市1町の議会議員の中から選出されています。
議案と議決結果 <平成21年第2回循環組合議会定例会・平成21年10月28日開催>

番 号	件 名	議決結果
議案第8号	平成20年度東京たま広域資源循環組合一般会計歳入歳出決算の認定について	認 定
議案第9号	平成21年度東京たま広域資源循環組合一般会計補正予算(第1号)	可 決
議案第10号	東京たま広域資源循環組合議会の議員その他非常勤の職員の公務災害補償等に関する条例の一部を改正する条例	可 決
議案第11号	東京たま広域資源循環組合職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	可 決

議案と議決結果 <平成22年第1回循環組合議会定例会・平成22年2月22日開催>

番 号	件 名	議決結果
議案第1号	東京たま広域資源循環組合職員の給与に関する条例の一部を改正する条例	可 決
議案第2号	平成22年度東京たま広域資源循環組合負担金について	可 決
議案第3号	平成22年度東京たま広域資源循環組合一般会計予算	可 決

東京たま広域資源循環組合

TEL:042-385-5947 FAX:042-384-8449

循環組合は組織団体からの負担金で運営されています

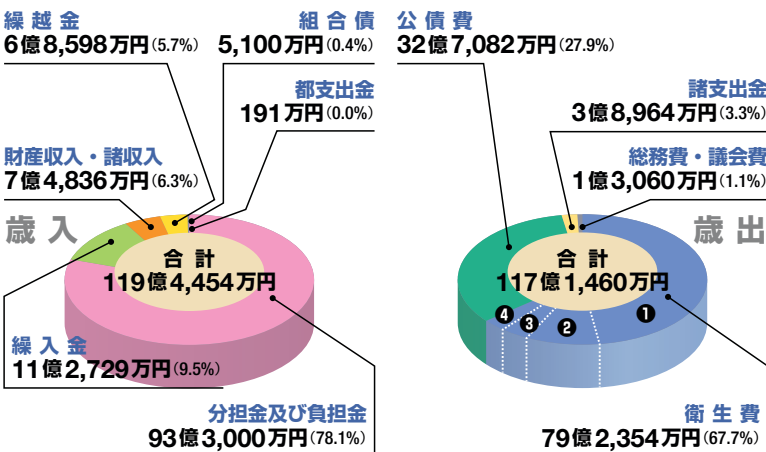
八王子市	立川市	武蔵野市	三鷹市	青梅市	府中市	昭島市
調布市	町田市	小金井市	小平市	日野市	東村山市	国分寺市
国立市	福生市	狛江市	清瀬市	東久留米市	武蔵村山市	
多摩市	稲城市	羽村市	西東京市	瑞穂町		

平成20年度決算の報告

決算額は、歳入が119億4,454万円(前年度比9.7%増)、歳出が117億1,460万円(前年度比14.8%増)となりました。

平成20年度では、エコセメント事業費や公債費が増額となっています。これは、エコセメント化施設で使用する燃料費の世界的な原油価格高騰の影響や、施設建設に伴う組合債の元金償還によるものです。

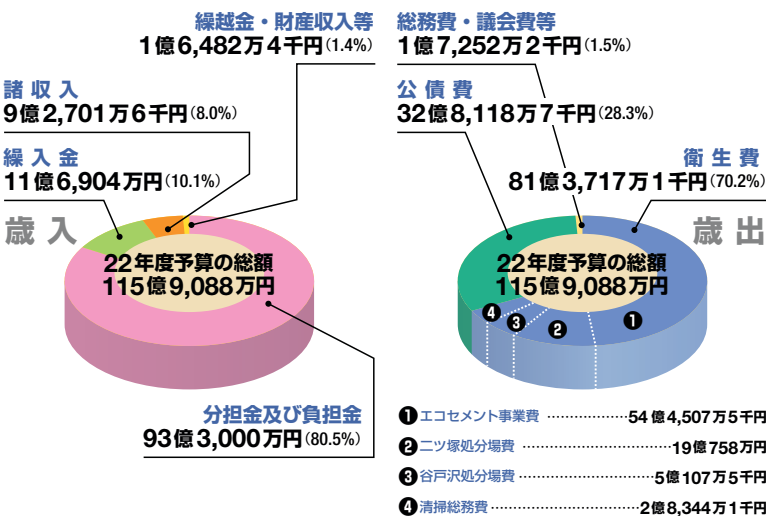
エコセメント事業費が歳出決算額合計のおおよそ半分を占めていますが、処分場での埋立量が大幅に減少し、処分場の延命化に大きく貢献しています。



【衛生費の内訳】
①エコセメント事業費(エコセメント化施設の運営に関わる経費).....53億9,972万円
②二ツ塚処分場費(二ツ塚処分場の運営・管理に関わる経費).....17億7,055万円
③谷戸沢処分場費(谷戸沢処分場の運営・管理に関わる経費).....4億7,167万円
④清掃総務費(処分場の運営・管理に関わる経費).....2億8,159万円

平成22年度予算の報告

平成22年度の予算は、115億9,088万円で、前年に比べ1億5,087万7千円の減額(前年度比1.3%の減)となりました。これは、二ツ塚処分場建設に伴う組合債の償還の一部が終了したことによる公債費減少などによるものです。



新理事 就任の挨拶

新理事 馬場一彦(東久留米市)

日頃より、当市のごみ処理につきまして、日の出町の皆様にはご理解とご協力を賜り、厚く感謝申し上げます。
当市のごみに対する市民意識の向上により、「ごみの減量・排出抑制・資源化」の取り組みが年々成果を上げ、ごみの減量に繋がっているところです。

今後とも、循環型社会の実現に向け、組合の理事としての役割を十分に果たせるよう努力していきたいと考えていますので、よろしくお願い申し上げます。



来年度『たまエコニュース』の発行は
9月・3月を予定しています



多摩400万人のごみ情報紙

たまエコニュース

2010 MAR.

VOL.51

発行:東京たま広域資源循環組合

【事務局】〒183-0052 東京都府中市新町2-7-1 東京自治会館内
TEL:042-385-5947 FAX:042-384-8449

「循環組合」とは...

二ツ塚処分場・谷戸沢処分場(日の出町)を管理・運営している特別地方公共団体で、日の出町のみならずの協力を得ながら、多摩地域25市1町の約400万人の可燃ごみの焼却灰をエコセメントとしてリサイクルし、資源として活用しています。また、不燃ごみの埋立をしています。みなさまと共にごみ問題の解決に取り組んでいます。

二ツ塚・谷戸沢処分場、エコセメント化施設で定期的に環境調査を実施して安全性を確認

周辺環境への影響はありません

徹底した安全管理と定期的に環境調査を行っています

循環組合では、二ツ塚・谷戸沢処分場、エコセメント化施設において、定期的に環境調査を実施しています。

水質検査の項目は、(1)ごみの層を通った水(浸出水)、(2)浸出水を処理した後に下水道に放流している水、(3)埋立地外の雨水を集め、一時的に貯めている防災用の池の水、(4)埋立地内の地下水、(5)処分場内と周辺の井戸水、などです。

いずれの検査でも、基準値を大幅に下回る結果で、それぞれの安全性が確認されています。

また、二ツ塚処分場での周辺大気調査では、大気中の有害物質の濃度は、東京都で同時期に調査された多摩地区の調査結果と比べて大きな差はなく、環境基準を満たしています。

これらの環境調査は、日の出町、地元自治会、循環組合で締結した公害防止協定に基づいて実施しています。

エコセメント化施設は環境保全に配慮して管理・運営しています

循環組合では、循環型社会づくりの推進のために、可燃ごみの焼却灰からセメントを作る「エコセメント事業」に取り組んでいます。

エコセメント化施設の定期的な環境調査では、エコセメントの製造工程で発生する排出ガスや下水道に放流する水について、大気の検査や水質検査を行っています。いずれも周辺環境への影響がないことが確認されています。

また循環組合では、法が定める排出基準値よりも、さらに厳しい自己規制値を設定していますが、それも下回っています。これらは、エコセメント化施設が徹底した安全管理のもとで運営されていることを裏付ける結果といえます。

今後も環境保護に万全を期して、管理・運営に努めていきます。

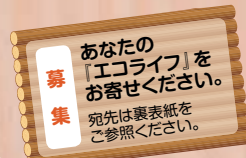
◎NDとは「検出されない(Not Detected)」という意味。調査結果が、数値で測るよりも、さらに低い値であることを示します。

多摩ECOのピープル

大学で循環型社会について研究 ごみ減量はひとり一人の意識から

大学では一般廃棄物に関して共同研究を行い、多摩地域の調査を担当しました。ごみ収集の有料化や戸別収集などが、ごみ減量に直接的な効果があるという結果に。普段の生活では、ごみを出さない「リデュース」が大事と考え、不要なものは買わない・もらわないことを心がけています。(寺澤さん)
卒業論文で地元のごみ問題を取りあげ、エコセメントについて知りました。処分場見学会に参加して、あらためて自分の生活とごみ問題は身近な関係だと実感。日頃はごみの分別を徹底、まずは地域のルール通りに分別することが減量への第一歩です。(近川さん)

青梅市 寺澤宏範さん(左)
東大和市 近川俊明さん(右)



環境調査の結果はホームページで公表しています。ぜひアクセスしてみてください。



<http://www.tama-junkankumiai.com>



エコセメント化施設と二ツ塚処分場

エコセメント化施設 排ガス調査結果(平成21年度上半期)

調査項目 (単位)	調査結果		自己 規制値	法規制基準値	
	焼成炉	乾燥機等		焼成炉	乾燥機等
窒素酸化物 (ppm)	12~21	18~24	50	250	414
硫黄酸化物 (ppm)	ND	ND	10	2158	9635
塩化水素 (ppm)	ND	ND	10	430	—
ばいじん (g/m³)	0.002~0.006	ND	0.01	0.04	0.35
水銀 (mg/m³)	ND	ND ~0.034	0.05	—	—
ダイオキシン類 (ng-TEQ/m³)	0.00085~0.010	0.0000011~0.0000020	0.05	0.1	—

※表中の各数値は、酸素濃度12%に換算した値
・法規制基準値のうち、硫黄酸化物及び塩化水素の値は、法に規定する単位を ppm 単位に換算したもの

第2回 ポット苗植樹祭を行いました

循環組合では、二ツ塚処分場の自然環境を保全するための事業にも取り組んでいます。そのひとつとして、処分場内の緑地をスギやヒノキの針葉樹林から、広葉樹も茂る多種混交林へ転換を図るため、地元産のドングリなどの種子の散布や、ポット苗として成長させた苗の植樹を行っています。

平成19年度からは、多摩地域の小学校の協力のもと、小学生がポット苗を育成する取り組みを開始しました。3月5日には、立川市立第四小学校の6年生が、これまで育成したポット苗を二ツ塚処分場に植樹しました。平成21年度からは、東久留米市立第六小学校と福生市立福生第五小学校の5年生が活動に参加し、現在、各校でポット苗を育成しています。



▲二ツ塚処分場の森に設置する果箱を作りました
▶ポット苗作成・植樹証明書



▲子どもたちが自分で育てた苗を植樹しました

多摩400万人のごみ情報紙 たまエコニュース

循環組合の3つの事業は 環境に配慮し、徹底した安全対策のもと展開しています



エコセメント事業

可燃ごみ焼却灰を
エコセメントに再生
**徹底した環境配慮のもと
製造しています**

循環組合では、可燃ごみの焼却灰からセメントを作る「エコセメント事業」に取り組み、平成18年7月から「東京たまエコセメント化施設」を本格稼働しています。

受け入れは密閉した建物内で行われ、灰が外へ飛び散ることを防いでいます。

焼却灰に含まれるダイオキシン類は、1,350℃以上の温度で焼成することで分解され、無害化します。このときに発生する排ガスは、急速に冷却されダイオキシン類の再合成を防止します。また、排ガスはろ過式集塵機（バグフィルタ）によりきれいにして煙突から排出されます。バグフィルタ等で集められた重金属類は、重金属回収設備で処理・回収して、リサイクルしています。

エコセメント事業は、環境に十分配慮し、徹底した安全対策のもと運営しています。

平成18年7月から本格稼働している東京たまエコセメント化施設

二ツ塚 処分場

多摩25市1町の
不燃ごみを埋め立て
**徹底管理と定期的な
環境調査を実施しています**

二ツ塚処分場では、平成10年1月から、多摩地域25市1町から出されるごみの埋立が行われてきました。エコセメント化施設の本格稼働により、現在は不燃ごみだけを埋め立てています。

徹底した安全対策のひとつとして、二ツ塚処分場では、浸出水を「貯めない」「漏らさない」「見逃さない」ための国内最高水準の設備が設置されています。

処分場に備えられた浸出水集排水管に集められた浸出水は、処理施設に送られ、微生物などによる処理を行った後、きれいな水として公共下水道に放流されます。また、処分場の底は多層構造で水をささぎるように施工（しゃ水工）されているので、浸出水が漏れ出すことはありません。万が一の漏水を管理するためのモニタリングシステムも導入、徹底した安全管理体制をとっています。

浸出水を外に出さないためのしくみ

多層構造で水をささぎよう施工されているので、
浸出水が漏れ出すことはありません。

埋立地イメージ

谷戸沢 処分場

埋立終了後も適切な
維持管理を実施
**順調な自然回復が
進んでいます**

谷戸沢処分場は、昭和59年から14年間にわたり、多摩地域から出るごみの埋立が行われていました。埋立終了後も、自然回復を目的とした維持管理を続けています。

現在、埋跡地は22ヘクタールの広大な草原などになり、1年を通してさまざまな草花が生い茂っています。清流復活事業として貯水池を設けたことから、水辺を好む鳥類やトンボ類が増加しています。

生態モニタリング 調査報告会を行いました

谷戸沢処分場では昨年度、約600種の昆虫類、約70種の鳥類が確認されています。循環組合では、こうした生態のモニタリング調査を行っています。このたび谷戸沢処分場の開場・環境調査開始から25年を迎えたのを機に、3月6日に「谷戸沢にすむ生き物たちの25年間の記憶」と題して調査報告会を行いました。会場の日の出町・イオンホールには約150名の参加者が集まり、動植物の変遷や国蝶オオムラサキ、日の出町天然記念物トウキョウサンショウウオの保全状況などに関する報告に耳を傾けました。今後も調査を継続していきます。

モリアオガエル
オオムラサキ
報告会の様子

多摩地域のリサイクル率は 全国でもトップレベルです

平成20年度の多摩地域のリサイクル率は、全国平均を大きく上回る36.7%を記録しました。多摩地域のみなさんのごみ問題への意識が高いことに加え、平成18年7月に本格稼働した東京たまエコセメント化施設によって、可燃ごみの焼却灰がすべてエコセメントとして再資源化されたことが、大きな要因となっています。

本紙の調査でも、買い物の時にマイバッグを持参してレジ袋を断る人が大幅に増えています。これも多摩地域のみなさんのエコ意識を物語るものといえます。

また、東京都内の62市区町村が共同で取り組む「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」では、「レジ袋削減に関する共同アピール」を宣言。本年度は、ポスターやラジオ、JR車内放映などのキャンペーンを行いました。

『たまエコニュース』読者も実践！

買い物の時に、レジ袋辞退やマイバッグを持参している人は着実に増えています。本紙調べ（いずれも多摩地域住民1000人が対象）

	いつもやっている	たまにやっている	やっていない
2005年9月	27.1%	45.4%	27.5%
2009年9月	55.3%	37.7%	7.0%

リサイクル率（総資源化率）とは
ビン・缶・古紙類といった資源ごみを再資源化した量や集団回収量などを合わせ、すべてのごみの量で割った数値です。
※多摩地域ではエコセメント化分を含めて算出しています。

総資源化率（多摩地域）※多摩地域ごみ実態調査（平成20年度版・財団法人東京市町村自治体調査会）より
総資源化率（全国）※全国データ資料―一般廃棄物の排出及び処理状況等（平成19年度実績）

平成・年度	総資源化率（多摩地域）	総資源化率（全国）
10年	22.8	12.1
11年	24.0	13.0
12年	25.0	14.0
13年	26.0	15.0
14年	27.0	16.0
15年	28.0	17.0
16年	29.0	18.0
17年	30.0	19.0
18年	35.0	20.0
19年	36.7	20.3
20年	36.7	20.3

総資源化率 = (資源ごみからの資源化量 + 集団回収量 + 収集後資源化量) / (総ごみ量 + 集団回収量)

ごみ減量レポート

多摩25市1町のごみ減量の取り組みをご紹介します

狛江市

人口:77,228人
(平成22年1月現在)

ごみ収集有料化からごみ量は着実に減少、 古布のリサイクル活動を展開しています

狛江市では、平成17年10月に可燃・不燃ごみの指定収集袋の有料化を導入して以来、着実にごみ量が減少しています。平成16年度を100とすると、平成20年度は可燃・不燃ごみ合計で81まで削減、総資源化率（リサイクル率）は、多摩地域の平均を上回る38.1%に及びました。さらなる分別の徹底やリサイクルを市民へ呼びかけるため、『ごみ半減新聞』を配布しています。

市のリサイクルの拠点となるビン・缶リサイクルセンターでは、古布を活用した草履やネクタイ作り、裂織の講習などが市民により活発に行われています。「着物だと着る機会がなくても、小物に作り直せば日常で活用でき、思い出残ります」と古布の活用をめざし6年前から活動する彩染工房の代表・宮澤みどりさん。これまで3回、7月にセンターで作品展示会や手作り体験を行い、毎年約200名が来場。それをきっかけに、自宅に眠っていた古布がリサイクル提供されるなど、市民の理解と活動が広がっています。

▶「ごみ半減新聞」は年3回発行。ごみ処理等の現状を伝え、ごみ減量を訴えています

▶ビン・缶リサイクルセンターで活動する彩染工房のみなさんと裂織の受講生

▼小学生が気軽に体験できるように、段ボールでミニ織り機を手作り、コースターを織りました

▲古布で作った草履

エコセメント 通信

エコセメント製品が各地に
広がっています

東京たまエコセメント製品は、道路の舗装材や縁石、側溝などのコンクリート二次製品に加工され、公共工事などで利用されています。その利用先は23区にも広がっており、有楽町駅前（千代田区）など多くの場所で活躍しています。

昨年10月、循環組合がエコセメント化施設の運営・維持管理を委託している、東京たまエコセメント（株）が、循環型社会形成推進功労者として環境大臣表彰を受けました。これは、エコセメント化事業が埋立地の延命化等に寄与しているとして、3R活動優良企業に認められたものです。

また、平成25年に行われる東京国体・全国障害者スポーツ大会では、環境配慮型施設への転換が謳われ、エコセメント等の再生資材を積極的に活用することが環境指針に示されました。

▲車止めや歩道の舗装材など、さまざまな分野でエコセメント製品が使われています

▲循環型社会形成推進功労者等大臣表彰の様子（平成21年10月16日、千葉市で開催された第4回3R推進全国大会）

みんなでごみを減らそう ごみ減量アイデア

みなさんから、たくさんのアイデアが寄せられました。あなたも、ぜひやってみましょう！

◎ベッドやソファなどの粗大ごみは、捨てる前に市内のリサイクルコーナーに情報を載せます。ベビー用品や子ども服など、短期間しか使わないものは譲り合って活用しています。（府中市・42歳・女性）

◎洋服はけっとう古くなるまで着て、最後は雑巾にして活用します。野菜や果物の残りは炒め物にして、できるだけ捨てないようにしています。（福生市・74歳・女性）

◎生ごみの堆肥化を10年近く続けています。それ以前に比べると、廃棄するごみの量は半分以下になったと思います。（昭島市・66歳・男性）

◎食べ残しを少なくするために食料品は適量をこまめに買うようにしたところ、生鮮食品を腐らせることがなくなり、ごみが減りました。（町田市・52歳・男性）

◎天ぶらの衣が残ったら、キャベツ等を加えてお好み焼きにします。（日野市・39歳・女性）

◎コーヒーの残りかすは、乾燥させて下駄箱や冷蔵庫の脱臭剤に使っています。（三鷹市・38歳・女性）

◎ケーキ等の入っていた箱で、子ども用の踏み台を作ります。中に丸めた新聞紙をたくさん詰めて強度を持たせ、きれいな包装紙でラッピングすると、子どもは大喜びです。（あきる野市・41歳・女性）

あなたのアイデア募集!!

あなたのごみ減量のアイデアをお寄せください。本紙に採用された方には記念品を差し上げます。
※先着・メールアドレスは裏表紙をご参照ください。